

各位

株式会社 SBI 新生銀行

SHINSEI SUSTAINABLE  
IMPACT ASSESSMENT



## 【サステナブルインパクト】犬山ロジスティクスセンターを裏付けとした 不動産ノンリコースローンにおける新生グリーンローンの実行について

株式会社 SBI 新生銀行(本社:東京都中央区、代表取締役社長:川島 克哉、以下「SBI 新生銀行」)は、三井物産リアルティ・マネジメント株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:大矢 孝、以下「MBRM」)がアセットマネジャーを務める合同会社スプリング 6 向けに、犬山ロジスティクスセンターの信託受益権取得費用等を資金使途とするファイナンスを組成し、2026年3月13日付で、その全額を「新生グリーンローン」※として実行しました。

MBRM は国内外の機関投資家向けの私募不動産ファンド事業を行うことを目的に設立された会社で、サステナビリティの取り組みにも注力しています。本ファイナンスの裏付け資産となる不動産が属する同社の旗艦ファンド「MBRM ファンド」は、物流施設等の産業施設、オフィス、住宅、商業施設、ホテル、底地等を運用しており、環境認証の取得を積極的に進めています。

SBI 新生銀行グループは、2025 年度からの中期経営計画において、中期ビジョン「次世代の金融、共に築き切り拓く未来」を掲げ、「サステナビリティ経営の深化」をその基本戦略のひとつに位置付けています。今後も、環境・社会課題解決に取り組むお客さまと連携し、「事業を通じた環境・社会・お客さまへの長期的な貢献」と「当行グループの持続的な成長」との好循環を実現してまいります。

### <SBI 新生銀行サステナブルインパクト評価室によるグリーンローン評価の概要>

借入人	合同会社スプリング 6
対象物件	犬山ロジスティクスセンター
アセットマネジャー	三井物産リアルティ・マネジメント株式会社
資金使途	信託受益権取得費用等
本プロジェクトの意義	環境配慮型建物として認定された物流施設の保有 ・CASBEE 不動産 A 取得済(2023年3月)
本件がもたらす環境改善効果と社会的課題との整合性	SDGs では主に「目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、「目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標 11 住み続けられるまちづくりを」、「目標 13 気候変動に具体的な対策を」に貢献すると考えられる。また、国の課題認識や方針とも整合していると評価した。
本ローンに関するその他の評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ MBRM が運用する MBRM ファンドはサステナビリティにかかるポリシーが適用されており、ファンド全体の約 78%(床面積ベース、2025年11月時点)のアセットで環境認証を取得している。</li> <li>➢ 対象物件においては屋根を、太陽光発電を行う事業者へ貸し出し、再生可能エネルギーの創エネに貢献している。</li> <li>➢ 対象物件は物流施設であるため、都市計画等で求められてはいないものの、独自の取組みとして、地域の自然分布と同様の樹種を中心とした高木、低木の植樹と芝張を行い、敷地面積の約 3%の緑化を行っている。</li> </ul>

※ 「新生グリーンローン」とは、明確な環境改善効果が認められる事業に資金使途を限定したローンであり、2024年12月に当行が策定した、「SBI 新生銀行グループグリーンファイナンス・フレームワーク」に適合するファイナンス。新生グリーンローンや SBI 新生銀行グループグリーンファイナンス・フレームワークについては、下記 URL をご参照ください。

[https://www.sbishinseibank.co.jp/institutional/sustainable\\_finance/green/](https://www.sbishinseibank.co.jp/institutional/sustainable_finance/green/)

以上

お問い合わせ先

SBI新生銀行サステナビリティ&コミュニケーション統括部

報道機関のみなさま [SBIShinsei\\_PR@sbishinseibank.co.jp](mailto:SBIShinsei_PR@sbishinseibank.co.jp)

株主・投資家のみなさま [SBIShinsei\\_IR@sbishinseibank.co.jp](mailto:SBIShinsei_IR@sbishinseibank.co.jp)